

海外派遣留学プログラム 留学中報告書

所属：国際教養学部

学年：3 年

留学先大学：University of eastern finland

現在の学期：Spring semester

時間割：

曜日	履修科目名・時間等
月	14:00~16:00 Development crisis and globalization
火	8:00~10:00 Introduction to finish educational system 12:00~14:00 Finish1B(木曜日 も同様)
水	9:00~12:00 Education for sustainable future
木	12:00~14:00 Language education related to event for children
金	10:00~12:00 Boreal and arctic socio-ecological system
土・日	
オンデマンド	social divisions and inequalities

履修科目や近況について

履修登録においては、卒論のテーマである発展途上国の発展や言語教育などに焦点を当てた授業を履修し、その他の授業においては、教育先進国のフィンランドの教育システムや北欧だからこそ学べる北極の生態系や社会的繋がりについて、そして前タームに引き続きフィンランド語の授業を履修した。

Development crisis and globalization では、世界、地域の発展問題について考察する授業であり、講義式で授業が行われ、自分の興味ある development に関わる問題について position paper を提出することになっている。発展において、ボトムアップ型に焦点が当てられておりとても興味深かった。

Introduction to finish educational system and school life では、フィンランドの教育システムや学校生活について学び、教育先進国での生徒の能力を引き出すような新しい教育の在り方について学ぶことができとても興味深かった。

Education for sustainable future では、サステナビリティ自体をしっかりと理解し、biodiversity, circular economy, global warming に分かれ、そのテーマにおける授業を子供

たちに行い、プレゼンや教育 material に関する分析を通してサステナビリティ教育について学ぶ。授業の中で森の中に調べに行ったり、ディスカッションやグループワークなどをしたりとアクティブな授業だった。

Language education related to event for children では、子供に対する言語、文化教育におけるより学びへのモチベーションを高める教育の在り方について実際に小学校でのイベントの企画などを通し学ぶ。言語教育の在り方における授業であるため、今後の卒論に活かせる内容であるといえる。

Boreal and arctic socio-ecological system では、生態系や温暖化による影響などといった physical な側面と先住民との関わりといった social な側面に分かれ、包括的に北極の在り方について考える力を学び、前半の physical な側面におけるテストを行い、後半に授業で学んだことを通した presentation が課題としてある。生態系について専門的に学んだことがないため、専門用語がかなり難しかったが、これから環境問題や持続可能性について学ぶ上で用語も含め、知識を得ることができた。

Finish1B では、finish1A を終えた、またはそれ同等のレベルのフィンランド語能力を持つ学生に向けて、フィンランド語の日常的なコミュニケーションスキルを身に着ける授業が行われ、週2回の対面授業と課題の提出が求められる。

生活面では、前のセメスターに引き続き、毎週水曜日に行われる日本語サークルの「ヨーク」に参加し、フィンランド人の学生だけでなく、日本人との交流も行っている。language cafe という言語を生徒同士で教えあう活動においては、今回韓国のグループに参加し、韓国語や文化について学ぶ予定だ。また、千葉大の友人のつながりでセメスターの最初にイタリア人の学生との繋がりができ、定期的にご飯を食べたり、街のアイスホッケーのイベントを見に行ったり、sykettä というスポーツイベントを開催するプログラムに入り、ヨガやバレーボールなどに一緒に参加している。また、ルームメイトの韓国の留学生のつながりで韓国と日本人の学生で旅行やクッキングパーティーを定期的に行っている。寮生活では、韓国とスペインからの留学生とシャワー、トイレ、キッチンをシェアし、定期的一緒に掃除をする日を設けている。また他の留学生の友達も一緒に cooking party をすることもある。

旅行においては、1月2月は授業が多めであったため、フィンランド国内のタンペレやヘルシンキ旅行だけであったが、3月からは授業がほぼ Finish1B だけになるため、イタリアに2週間旅行に行く予定だ。

↓韓国、日本、オランダの友達と旅行した時の写真



↓イタリアと日本の友人と朝食をカフェに食べに行った時の写真



↓大学の学食の写真



↓アイスホッケーの試合の観戦（赤：ヨエンスーチーム）



海外派遣留学プログラム 留学中報告書

所属：国際教養学部

学年：3 年

留学先大学：University of Eastern Finland

現在の学期：fall semester

時間割：授業曜日が決まっていないため、以下はとある 1 週間の時間割です。

曜日	履修科目名・時間等
月	10:15-12:00(or 8:15~12:00) Geography, Politics & Environment
火	14:15-17:00(or 12:00-15:00) Sustainability & Natural Resources
水	9:15-12:00 Environmental Governance and Policy Instruments: Theory and Practice
木	10:15-12:00 Gender and Finish Culture and Society(individual class)
金	10:00-12:00 Finish 1A: Introduction to the finish language, Autumn Group (Individual class)
土・日	

履修科目や近況について

履修登録は自分のコースである Environmental Policy を中心に履修をし、その他の授業においては、フィンランドのジェンダーへの取り組みに興味を持っていたので、Gender and Finish Culture and Society とフィンランド語勉強のための授業を履修した。

Geography, Politics & Environment では、研究、社会変革、および（非）持続可能性のガバナンスにおける政治および経済地理学の概念の適用性に関する批判的な見方について学ぶ。これは大学院生向け授業で、週によって変わりますが、週 1~3 回、3~4 時間の対面授業になっています。ペアでの発表、グループでの発表、パネルディスカッションが 1 回ずつあり、最終課題として最終レポートを提出することになっている。概念的な内容で Advanced level であるため、フィンランドの大学院生ばかりであるが、積極的に発言をするなどができてきた。

Sustainability & Natural Resources では、持続可能性や自然資源に焦点を当てた様々なセクターの取り組みを、フィンランドだけでなく他の国、地域の視点から学ぶ。週 1 回または 2 回、3 時間ほど対面での講義を受け、その中でディスカッションが毎回行われる。課題としては毎回の授業の前に決められた論文を読み、それに関するレポートの提

出と最終レポートである。

Finish 1A: Introduction to the finish language では、フィンランド語の基礎的な知識を学ぶ。すべて個別での作業で、週に 1 回フィンランド語の教授に質問できる場が設けられている。提供されたインターネットのツールを用いて勉強し、最終テストで成績が決められる。

Gender and Finish Culture and Society では、フィンランドのジェンダーに関する取り組みや考え方などを文化や社会から学ぶ。最初は対面での説明とディスカッションを行った後、Moodle から各自決められた映画等から自分のレポートをセクションごとに作り、最終レポートを提出する。

Environmental Governance and Policy Instruments: Theory and Practice では、環境ガバナンスの様々なモードを探求し、司法行政規制、情報製作、経済的手段、計画、共同規制及び自己規制など様々な形態の環境製作手段の特徴と使用法について学ぶ。週 2 回または 3 回ほど、3 時間の授業で、対面で行われる。今月末から始まるため、まだ授業は始まってない。

生活面では、週に 1 回日本語サークル「ヨーヤク」への参加し、折り紙を一緒にしたり、日本食を作る、日本のアニメや漫画について話し合うなどを行った。また、ルームメイトのドイツ人学生を通じてドイツ人コミュニティとの交友の幅を広げたり、language cafe の日本語を教える会でのサポートを週に 1 回行ったりしている。また、私の学部の学生団体である tombolo のイベントに参加できる際は参加し、同じ学部の学生とはフィンランドの学生だけでなく、授業などを通して他の国の留学生の友人も作ることができた。また、留学生に対するイベントを企画する JEIS のイベントに積極的に参加し、今月末のハロウィンパーティーにも参加する予定だ。Sykettä というスポーツイベントを開催する団体にも登録し、バレーボールのイベントに数回参加し、これから他のスポーツにも参加する予定だ。

寮生活では、2 人のドイツの学生とキッチンやトイレ、シャワーをシェアしており、個人の部屋がある。2 週間に 1 回掃除+クッキングの日を設け、カードゲームをしたり、また以前はピザパーティーを行った。ルームメイト繋がりで友人を特に最初の時期は増やすことができた。

旅行においては、今月にノルウェーとスウェーデン、来月はフィンランド国内のタンペレ、トゥルク、ユヴァスキラ、12 月はフィンランド国内のラップランド、ドイツ、1 月はフランスに旅行に行く予定だ。授業が曜日で決まっておらずバラバラなため、1 週間や 2 週間、授業の間が開くことがあるので、旅行の計画を立てやすかった。

↓留学生の友人たちと cooking party をした時



↓ CityCenter



↓東フィンランド大学の図書館



↓ City Orientation のイベント



↓ JEIS（大学の留学生交流団体）のハイキングイベント



↓ 学食の写真



↓バス停からのお気に入りの帰り道

